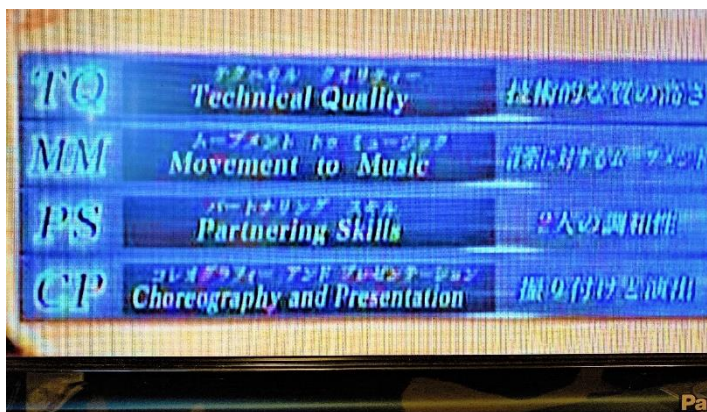


## ダンス英語の表記、意味、由来などについての一考察 (新・第2回)



愛知県プロ・ダンス・インストラクター協会の会員の皆様、あけましておめでとうございます。お元気でいらっしゃいますか？ まいど、燕のジョーでございます。今回のダンス関連英単語は、ケーブルテレビでよく放映される、WDSF の競技会に於ける、“採点基準”に関する英単語を中心にご紹介申し上げます。右下の画像は、その競技会のテレビ画面の一部を撮影した映像です。ちょっとピントがボケて見づらいですが、臨場感があっていいと思い掲載しております。これはスケートなどではおなじみの採点基準で、スケート関連のウェブ・ページからの引用も下に掲載しておきます。現在の愛知県の競

技会では、ここまで採点項目は分化してはおりませんが、メダルテストの採点票などには、ムーブメントやタイミングなどに○印を付けられる様に項目が分かれていますし、何せ、自分が何か発表会や試験、競技会で踊る時に、こういう項目別の練習をする際の参考になります。ただ単に黙々と踊るのではなくて、姿勢やホールドを崩さないなどの技術的な事から、表現やアピール(プレゼンテーション)、更には足型構成(コレオグラフィ)なども考えて踊ったり、練習する事が重要です。



このエッセーは何せ、“ダンス関連英単語”の解説がメインなので、今回は、これに関して述べます。ダンス競技はフィギュアスケートなどに似ている部分が多いので、そういう分野の採点方法も参考にしているのでしょう。下にそういう関係のウェブ・ページを引用しておきます。(http://tororinnao.info/04rule/09b.html)

僕も初めて知りましたが、スケートの場合、そういう採点方式(採点項目)を PCS(プログラム・コンポーネンツ・スコア⇒Program Components Score)と言って、ウェブ・ページを見ると判る様に、それぞれ SS とか TR などの省略形を用いて、各項目を表示しているようです。PCS は日本語で訳せば『構成点』と言います。要するに“その選手の演技を構成しているそれぞれの観点(基準)からの項目に対して付けられた点数”とでもいう意味です。そういうスケートの採点方法などに準拠して、WDSF の競技会の審査では、従来からの比較対照の『主観評価審判方式』(例えば、10 組踊っている時に、上手に踊っている上位 6 組を全体を見渡して選ぶというような審判の仕方)では、オリンピックなどでダンス競技会が採用された時に、それではまずいという事で、スケート界と同様な『絶対評価審判方式』というシステムが、2010 年の WDSF のアジア大会から採用されたそうです。絶対評価とは、これから解説する TQ や CP 等の 4 項目を各 10 点で採点し、それを合計して 40 点満点中何点になるかという審査システムです。

上記の TV 画面を映した映像に書かれている様に、ダンスに於いても、TQ、MM など、記号的に表記します。ではそれらを少し一緒に勉強しましょう。まず、TQ…これはテクニカル・クオリティという事で、ポピュラーな英単語ですから、『技術の質』という事で判りやすい事柄です。言うまでもなく、ホールドが崩れないとか、ライズ&ローアが正確であるとか、ラテンで言えば、ボディ・アクション、ヒップ・モーション、バウンスなどが強く安定して、バランスもしっかりしているとか、スウェイ、ローテーション、ふた

りの組み方が正確かなどの、“技術”ですね。次にMM…これはムーブメント・ツー・ミュージックという事で、直訳すれば『音楽に対する動き』で、リズムやタイミング、そして更にはボディアクションや振り付けで、いかに音楽のメロディを表現しているかという事です。要するに、『音楽を表現しているか、音楽に合っているか』『音楽性』という事ですね。別の英単語として、ミュージカルティ(musicality)等という場合もあります。これも競技ダンスとしては当然の事で、もちろん、音楽を外して踊るなどという事は、高度競技会レベルではありえませんが、ただ単にビートに合っているのは勿論ですが、音楽のフレーズに合わせているか、ビートの強弱(例えばタンゴならば、4拍子の強、弱、中強、弱)に合って振り付けられているか、また別の簡単な例を挙げれば、例えばパソドブレであれば、8ビートのブロックが4回続いた後の、4拍独立した、“ンパンパ”と演奏される、やや音が静かな部分(⇒WDSFの教本においては、“ミニハイライト”という名称で呼ばれる)で、ちゃんとやや静かで、あまり騒々しく動き回らない足型になっているかとか、同じくパソドブレで言えば、第2ハイライトのやや前のファンファーレの“パッパパ〜ン”という部分も、それにふさわしいエクスペロージョンやエクステンションの様な、ややステーションナリー(その場での)振り付け、踊り方、表現になっているかなどという事です。そして、3番目のPS…パートナリング・スキルですが、パートナリングは、先回のこのエッセーで解説した通り、パートナー(同伴者、ダンスの相棒)という名詞を、動詞化して『パートナーとして上手にお互い振る舞う、(ダンスならば)ペアで協力して

うまく踊る』という意味になった動詞のパートナーのing形(動名詞)ですね。

## 良いパートナリング!!の例





## 構成点 (PCS: プログラム コンポーネツ スコアー)

構成点とは、**フィギュアスケートのプログラム全体を通して判断される5つの項目による合計点**になります。5つの項目からなるので、**ファイブコンポーネツ**とも呼ばれます。

各項目が10点満点を0.25点刻みで評価します。**技術点**との大きな違いは、満点が存在するということです。完璧、最高の出来ならば5つの項目全て10点になるわけです。

構成点の採点の流れについては、[こちら](#)をご覧ください。

### ■ 構成点の項目

構成点の5つの項目の種類は、[男女シングル](#)・[ペア](#)と[アイスダンス](#)では違いがあります。下記にまとめました。

【男女シングル・ペアの構成点の項目】

略記号	項目名	評価内容
SS	スケート技術 Skating Skills	プログラム全体の、スケージングの質やスピード、その変化など。
TR	要素のつなぎ Transitions/Linking Footwork	要素と要素の間の、ステップなどのつなぎ。要素への出入りの特所など。
PE	動作/身のこなし Performance/Execution	音楽に合った身のこなし、スピードの変化、演技をしているか。
CH	振り付け/構成 Choreography/Composition	調和のとれたプログラム構成、またハイライトの分布になっているか。
IN	曲の解釈 Interpretation	音楽を理解し、それに合った動き・表現がされているか。

【アイスダンスの構成点の項目】

略記号	項目名	評価内容
SS	スケート技術 Skating Skills	プログラム全体の、スケージングの質やスピード、その変化など。
TR	要素のつなぎ/身のこなし Linking Footwork/Movement	要素と要素の間の、ステップなどのつなぎ。要素への出入りの特所など。
PE	動作 Performance	音楽に合った身のこなし、スピードの変化、演技をしているか。
CC	振り付け Choreography	調和のとれたプログラム構成、またハイライトの分布になっているか。
IT	曲の解釈/タイミング Interpretation/Timing	音楽を理解し、それに合った動き・表現がされているか。リズムに合ったタイミングを取れているか。

教師試験の用語で言えば、“リード・アンド・フォロー”（男性が上手にリードして、女性がそれを正確にしっかり受け止め、又そのリードの力学をうまく利用してバランスよく、ステキに踊る）とでもいう単語と同じ意味ですね。男女ペアを単独の男、女として見れば、抜群に上手でも、男性のリードが女性を振り回すように強すぎたり、女性が男性のリード無しに勝手にくるくる回転したりするような例は身近に多いですが、そういう場合に、パートナリング・スキルの項目には良い点はつかないという事です。例えば、カップル解消した元別々のペアからの男女が組んで、時間が経たない時などは、この様に各々がうまくても、カップルとしてしっかり上手に見えるまでにはかなり時間がかかるものです。多少細かく言えば、男女がホールドして踊る際のフィジカル・コミュニケーション(物理的な力のやり取り)、離れて踊る際の空間の使い方、そして、シンクロナイズーション(二人のタイミングや動作がぴったり合致している=シンクロナイズしている事)などがその評価要素です。スキルはもう日本語になっている英単語ですね。もちろん『技能、技術』という意味で、言ってみればテクニックとほぼ同じ意味です。最後はCP…コレオグラフィー&プレゼンテーションですが、プレゼンテーションも先回解説した通りで、これもプレゼントの動名詞と思えばよいですね。演技構成、エネルギーの使い方、フロアの使い方、観客へのアピール、ダンスの雰囲気などです。そして、これら4項目が各10点満点で採点され、合計されその選手の得点となる訳です。(ここまでの多くの解説は、WDSF 競技会番組の解説者、田口順一氏《元三笠宮杯全日本フィギュアリスト》の説明からの引用です。) 近い将来多くの競技会がこのような採点方式を、少しでも採用するかもしれませんので、そうした際の予備知識もできる様にと、今回解説しました。少しでも参考になりましたでしょうか？

英単語 その通常のカタカナ表記	発音記号 英語の原音に最も近いカタカナ表記	意味や解説
Technical Quality テクニカル・クオリティ	[tɛknik(ə)l kwɔ:ləti] テクニカル クワラティ	もう充分日本語になっている英単語。
Movement ムーブメント	[mú:vmənt] ムーヴマントウ	-ment という単語は、カタカナで、-メントと表記されるが、実際の発音は、-マントウという風になります。これは日本語表記は、あくまでローマ字的に置換しただけなので、本当の発音に近いかは疑わしいのです。
Partnering Skill パートナーリング・スキル	[pá:tnəriŋ skíl] パートナーリング スキル	日本人はつい、パートナー <b>リング</b> とか、イカリングみたいにパートナー <b>リング</b> (パートナーの環?) と発音しそう。
Choreography コレオグラフィー	[kɔ:riəgrəfi] コーリアグラフィ	動詞形は、コレオグラフ = choreograph [kó:riəgræf] = <b>コ</b> ーリオグラフィ = 振り付ける。アクセントの位置が変わります。今では日本語になっていますね。
Presentation プレゼンテーション	[pri:zenteíʃən] プリーゼン <b>テ</b> ィション	先回解説済み
Component コンポーネント	[kəmpúnənt] カム <b>ポ</b> ウナントウ	構成要素、成分
Musicality ミュージカルティ	[mjuzikələti] ミュージ <b>キ</b> ャラティ	音楽性、音楽的才能
Synchronization シンクロナイゼーション	[sɪŋkrənəizéíʃən] シンクラナイ <b>ゼ</b> ィション	勿論、シンクロナイズド・スイミングの時の単語と同一。『同時に起こる』とか『一致する』という意味。

さて、愛知県プロ・ダンス・インストラクター協会・会員の皆様にとりましては、今年が実りのある、ステキな一年になります事を、この年頭に心よりお祈りいたしまして、新年のエッセーを閉じたいと思います。いつもこのエッセーをごひいきして下さい、誠に深く、深く感謝申し上げます。

燕のジョー氏が、このエッセーに掲載すべきダンス関連英単語の選択や、解説の補助などのお手伝いをして下さる人を探しています。PDI 会員やそのお知り合い、友人、家族など誰でも構いませんので、心当たりのある人は、総務・内藤(☎090-1726-9996)までお知らせください。何卒宜しくお願い申し上げます。